



## 巻頭言

### 宮城県支部設立20周年に当たって

副理事長 中里 和裕

私たちの宮城県支部は今年の3月で設立20周年を迎えました。

今はもう、設立当時を知る会員も少なくなりましたので、この機会に支部設立までの経緯を簡単に振り返ってみたいと思います。

支部設立の前年に当たる平成14年。当時、宮城県内の教員が公的に教育相談を学べる機会が宮城県教育研修センター（現宮城県総合教育センター）が主催する「カウンセリング研修会」（初級・中級）しかなく、研修の場が絶対的に不足していました。一方、日本学校教育相談学会は全国の都道府県及び政令指定都市に34の支部を有し、3000名を超える会員はほとんどが教員で、各支部では所属会員による研修会の開催をはじめとする活発な研究・実践活動が行われていました。しかし、残念ながら宮城県にはまだ支部が無く、会員も7名しかいないという現状でした。

そのような状況の中で、当時同じ中学校に勤務し、教育相談の研修の場の必要性を感じていた現理事長の渡辺美貴先生、芳賀玲子先生と私の3人が日本学校教育相談学会への入会申請を行ったところ、事務局の先生から「10名以上で支部を作ることができるので、ぜひ宮城県支部を立ち上げてほしい。」というお話をいただきました。しかし、支部には教育相談について相応の見識を持った理事によって構成される理事会も必要だ、とのお話もあり、宮城県支部を立ち上げるためには、まずは理事、そして支部のまとめ役となる支部理事長を引き受けてくださる先生を探すことから始めなければなりません。

この時、お力添えをいただいたのが、既に会員となっておられた門間純子先生（現支部顧問・支部名誉会員）でした。門間先生の御尽力により、元教育研修センター教育相談部長で、当時宮城県白石女子高等学校の校長を務められていた川島 克先生に直接お願いに伺ったところ、「平成元年の日本学校教育相談学会立ち上げの際に、当時の教育相談部の指導主事も声を掛けられたが、この時は時期尚早ということで見送った経緯があった。ぜひ宮城県支部を作りましょう。」と二つ返事で理事長就任を御快諾いただき、更には教育相談部長を務めておられた頃の同僚や研修生にもお声掛けをいただいて、あっという間に8名の理事を集めてくださいました。

こうして宮城県支部が設立される運びとなり、平成15年3月16日、勾当台会館を会場に正会員25名、準会員5名の計30名が参集して設立総会が行われ、宮城県支部は全国35番目の支部として活動のスタートを切ることになりました。総会後に行われた記念講演では、当時の日本学校教育相談学会会長の今井五郎先生に「学校教育相談の現状と課題」と題して御講演をいただき、その後の祝賀会も宮城県の教育相談の普及・充実を目指すという志を一つにする仲間同士で大いに盛り上がったことを覚えています。

時は流れ、生徒指導の中心的役割を担う教育相談（改訂生徒指導提要より）の重要性は増すばかりです。初心を忘れず、これからも会員一同、力を合わせて頑張りましょう。



# ◇◇ 委員会報告 ◇◇

## 研修委員会

委員長 神田 裕樹

コロナ禍の中で滞っていた様々な活動が5類移行と共に従来の形に戻って参りました。本研究会の研修会につきましても対面での実施ができました。さらにコロナ禍で普及に拍車が掛かったオンラインとの両方で実施することもできました。会場で直接講師の方の話を聞くことができれば最善ではありますが、従来よりも研修に参加しやすくなったと感じている方もいらっしゃるのではないかと思います。研修会の準備と共にオンラインのお世話をしてくださった方々にこの場を借りて御礼申し上げます。

現場で役立つものという意見が理事会においても出され、今年度は以下のような研修内容となりました。これからも会員相互の学びを深めて参りたいと思います。研修会の内容等に付きまして積極的に御意見等いただければと思います。

### ○令和5年度支部研究・事例発表会

期 日：令和5年8月19日（土）10：00～12：00

会 場：東北福祉大学仙台駅東口キャンパス

内容等：鈴木 宏子先生（大崎市役所 子育て支援課）

「母子父子自立支援員・婦人相談員」の仕事  
～SCとして知っておきたいDVの知識～

渥美 愛乃先生（石巻市立大谷地小学校養護教諭）

学校現場に求められる学校教育相談とは

～校内における「気になる子どもたち」への取組をとおして～



### ○第50回研修会（対面とオンラインで実施）

期 日：令和5年8月19日（土）13：30～16：30

会 場：東北福祉大学仙台駅東口キャンパス

内容等：坂本 條樹先生（共立女子大学家政学部児童学科 非常勤講師）

発達障害のある子を対象とした通級指導教室での取り組み

～多様な学びの場としての通級指導～

### ○第51回研修会（対面とオンラインで実施）

期 日：令和5年11月18日（土）9：50～16：15

会 場：東北福祉大学仙台駅東口キャンパス

内容等：新井 肇先生（関西外国語大学外国語学部教授）

（1）「生徒指導提要」が示すこれからの生徒指導・教育相談の方向性

（2）教員のメンタルヘルスと燃え尽きる前に支え合う職場づくり

## 広報委員会

委員長 千葉 久美子

広報委員の皆様のご尽力により、会報「きずな」を発行しており、このたび18号の「きずな」をお手元にお届けすることができました。この第18号は大崎ブロックの鈴木 宏子さんを中心に、大崎ブロックの素晴らしいチームワークの結晶の紙面になりました。大崎ブロックの皆様に衷心より感謝申し上げます。

この会報はタイトルのとおり、会員相互のきずなをより深め、研修や情報交換の場になれるよう広

報委員会が心を合わせて、魅力ある紙面を作っていきたいと思います。また、公私ともに御多忙の中、快く原稿をお引き受けいただきました会員の皆様に改めて御礼申し上げます。なお、18号以降の担当は以下のようになります

◇第19号・・担当：石巻ブロック

◇第20号・・担当：仙台ブロック

◇第21号・・担当：大河原ブロック

◇第22号・・担当：大崎ブロック

### コラム・紹介図書への投稿のお願い

会員のみなさまのコラム欄「つぶやき」を広く募集しています。日頃悩んでいること、日常の心を動かされたできごと、体験談、本の紹介、誌上発表などなど。縁があって仲間になった私たちです。この欄を通して、ネットワークを作り、情報を交換し、よりよい教育相談を目指していきたいものです。会報「きずな」が学会のネットワークづくりの一助になり、本当の意味での「絆」になることを念じて。

## 紀要作成委員会

委員長 中里 和裕

紀要作成委員会の仕事は、研究紀要「ふれあい」の作成です。昨年度は支部事務局の全面的な御協力により、12年振りの発刊となった「ふれあい」第8号を会員の皆様にお届けすることが出来ました。そこで、今年度は改めて紀要作成委員会が中心となり、現在、「ふれあい」第9号の発刊に向けて準備を進めているところです。

ところで、研究紀要は「研修・研究成果の整理・蓄積・保管」の場としての役割を果たしています（日本学校教育相談学会宮城県支部会則第20条）が、また、一方で支部会員による本学会認定の「学校カウンセラー」資格取得促進のための役割も有しています。

「学校カウンセラー」資格は、取得すれば日本スクールカウンセリング推進協議会が認定する「ガイダンスカウンセラー」資格取得のための基礎資格にもなり、また、本学会の主催する研究大会・夏季ワークショップや中央研修会等の参加に当たっては、参加費の優遇措置も受けることができます。資格申請に当たっては、「相談研究実績」として、「本学会研究大会、または市町村以上の他学会や研究会においての紙上発表や口頭発表等を行った実績」が必要となりますが、研究紀要はこの「紙上発表」の場として御活用いただけるのです。そこで、第9号の発刊に際しては広く支部会員の皆様にも研究発表や実践事例の寄稿を呼び掛けていきたいと考えています。「学校カウンセラー」資格取得を目指す会員の皆様の積極的な寄稿をお待ちしています。どうぞよろしく願いいたします。

## ◇◇ ブロック報告 ◇◇

### 大河原ブロック

幹事 高橋 錬

11月3日（金）に白石市立白石中学校を会場に、大河原ブロック研修会を開催しました。私を含めた6名での開催となりました。研修会と銘打ちましたが、参加者の方に提供していただいたお茶や茶菓子のおかげで（お気遣いありがとうございました）、茶話会の和やかな雰囲気研修会を進めることができました。アットホームな研修会は、ブロック研修会ならではのものだと感じます。

研修会は、一人の参加者が現在抱える課題について、事例研究形式で実施しました。参加者の様々な立場から語られる話には、多くの学びがありました。学会で学んだ理論や知識をどう学校現場で表現していくかを考えさせられました。

## 仙台ブロック

幹事 村上 誠

今年度、仙台ブロックでは、新型コロナウイルス感染症の流行以来初となる対面でのブロック会議と研修会を7月29日（土）に東北福祉大学仙台駅東口キャンパスを会場に開催しました。前半のブロック会議では、ブロック研修会をそれぞれの現場で先生方が抱える課題とその対処法や有効なアプローチの検討と共有の場とするために、事例研究などを取り入れていくことが話題となりました。後半の研修会では、特別支援教育士（日本LD学会）の千葉則子先生から「WISC-IVの下位検査を活用した学習方略～教育相談（相談支援）への活用の視点から」と題して、長年の研鑽を生かした理論と根拠に基づく支援とその効果について御講演をいただき、アセスメントに基づく方策の検討と実践の重要性を学ぶことができる大変有意義な研修会となりました。今後も先生方からの御要望を取り入れたブロック研修会の実施と志を同じくする先生方のネットワークの構築に努めて参りたいと思います。

## 石巻ブロック

幹事 藤坂 雄一

コロナ禍における対応が変わったとはいえ、インフルエンザの流行などもあり、集う契機を逸したまま時だけが過ぎてしまいました。せめて、この記事が発行されるまでにはブロックの会員が情報交流をする場を設定したいと考えております。

以前にも増して学校現場における教育相談のニーズは高まっており、学校現場ではケース会議や関係機関との情報交換も多く開催されています。SSWやSCとの連携により、専門的なアセスメントを踏まえた対応ができる環境も改善されつつあります。しかしながら、児童生徒の困り感に丁寧に寄り添うことができない教師、自身のアセスメントにのみ固執してしまいチームとしての協働ができない教師なども依然として存在します。学んでほしいと思う教師ほど、「働き方改革」を掲げて学ぼうとしない姿に困っている現場もあります。とはいえ、「生徒指導提要（改訂版）」という単語も少しずつ浸透しつつあり、「発達支持的生徒指導」についての理解が進み、「教育課程内外の全てにおいて進められる生徒指導の基盤」を意識する現場も増えているようにも感じます。学び続ける教師であること、それは現状の多忙のなかでかなりのエネルギーを要することでしょう。それでも、協働による学びを児童生徒に求めている私たちこそ、共に学ぶよさを積み重ねていくようにしたいものです。

## 大崎ブロック

幹事 高橋 聡子

大崎ブロックでは、6月にブロック理事会・研修会を開き、公開研修会に向けての話し合いと準備会を行いました。そして、8月26日、大崎市地域交流センター「あすも」に於いて夏の研修会を開催しました。「学級経営に生かすピアサポート」と題して、本学会副理事長である多賀城市立多賀城中学校長 中里和裕先生を講師にお招きして、御講話をいただきました。大崎市内をはじめ県内の小学校・中学校の初任層の先生や養護の先生、カウンセラー等20名の参加のもと多岐にわたるお話をお聞きし大変勉強になりました。

御講話のはじめには「個人と集団」の捉え方と各自がエゴグラムに取り組むことで、児童・生徒一人一人に寄り添うことの大切さを再確認することができました。また、生徒指導、教育相談の重要課題について、一つ一つ丁寧に教えていただきました。参加者の感想を掲載させて頂きましたのでお読みください。公開で研修会を開催したことで新入会員も増えました。改めて私たちの学びを広げていくことの大切さを感じました。中里先生におかれましては、お忙しい中講師を引き受けていただきましてありがとうございました。

資料中のたくさんの情報の中からポイントを絞って、中里先生のこれまでの経験を交えながらお話をしていただいたので、実践する時のことを想像しやすかったです。係活動等の学級経営の具体的な方法について講義だけでなく資料もいただけて、実りの多い研修会でした。ありがとうございました。

実際に行ってこられたことを基にたくさんの資料を使って教えていただきました。個を大切にしながら子どもたちを見ていくことの大切さを学ばせていただきました。今後の実践に役立てます。

生徒指導提要改訂のポイントのお話、とてもわかりやすかったです。

ピアサポートの考え方に基づいた学級経営の実際、大変興味深かったです。学年の中で提案してみたいと思いました。有意義な研修でした。

マズローの欲求階層が学校生活のどの部分に関連しているかなど分かりやすく教えていただきました。中里先生が実践してきた学級作りのノウハウが実に具体的ですぐにも実践してみたいと思いました。ありがとうございました。

現在は中学2年生の学級を担任しているが、係活動を今ひとつ活性化できなかつた。1年の中で何か一つ学級のために役立ったということを実感させることは非常に必要だと感じた。

学級経営において、子どもが活躍する場を設けることが大切だと学びました。気になる子どもとその周りの子どもを育てる方法はとても参考になりました。貴重な研修でした。

## ◇◇ 研修会等報告 ◇◇

### 令和5年度支部研究・事例発表会

聖ウルスラ学院英智高等学校 教諭 臼井 道子

『母子父子自立支援員・婦人相談員』の仕事 ～SCとして知っておきたいDVの知識～  
大崎市子育て支援課 鈴木宏子先生

今回のご報告は、本人とその家族が安心して生きていくために、担任の私が何ができるかを考えるきっかけになりました。

DV被害のお母さんに「怖かったんでしょう？」と言葉を掛けた時、「怖かったんです」と言って泣き出した事例は、聴くことの大切さを私に教えてくれました。時間を取り、「大丈夫」という雰囲気でも目の前の生徒や御家族に向き合うのは、難しい時もあります。それでも心を落ち着けて聴いたことで、生徒が家族からきつい言葉を浴びせられていたと分かったことがありました。

御報告には、児童扶養手当の具体例はもちろん、DV被害者・加害者双方のためのサポート機関の御紹介もあり、担任として予防的対応を考える手掛かりになりました。

一番驚いたことはDVが子どもの脳に与える影響でした。暴言が聴覚野の肥大を引き起こし、子どもが話をききにくい状態になったり、体罰が前頭前野の萎縮につながり、子どもが感情をコントロールする力を弱くする可能性があるということでした。

### 第51回研修会

仙台ブロック 内浦 恵美子

11月18日（土）東北福祉大学仙台駅東口キャンパスを会場に、宮城県支部第51回研修会が行われました。当日は集合型とオンライン型を兼ねたハイブリット開催でした。

関西外国語大学教授の新井肇先生を講師に研修1「『新生徒指導提要』が示すこれからの生徒指導・教育相談の方向性」と研修2「教職員のメンタルヘルスと燃え尽きる前に支え合う職場づくり」の二部構成の研修でした。

研修1は児童生徒の問題行動や不登校などの現状及び背景を確認し、これからの生徒指導・教育相談が目指すべき方向について、グループ協議の演習を交えての研修でした。生徒指導の定義として、「させる」生徒指導から「支える」生徒指導への転換があり、生徒指導の目標が「自己指導能力の育成」と提言されました。

研修2は新井教授の研究をもとに、教職員のメンタルヘルス状況とバーンアウト（燃え尽き）の背景などについて、詳しい調査結果をもとにした講義でした。

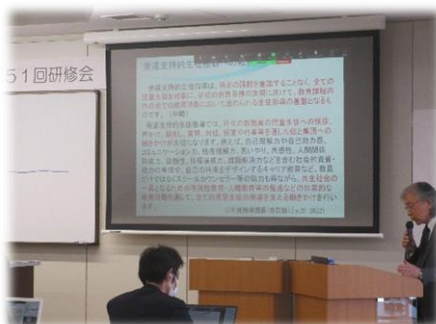
研修時間5時間に及ぶ内容でしたが、すべての中に熱い教育愛と人間愛を感じました。



### 富谷市立 富谷小学校 芳賀 祐子

11月18日（土）宮城県支部第51回研修会が、東北福祉大学東口CPにおいて、関西外国語大学教授 新井肇先生をお招きして開催されました。午前中は「『新生徒指導提要』が示すこれからの生徒指導・教育相談の方向性」でした。膨大なデータや資料から読み取れる児童生徒の背景にある社会環境や社会情勢についてエビデンスを基に詳しく御講話いただきました。改めて児童生徒を深く理解し、教職員として実践を見直すことができました。

さらに午後には「教職員のメンタルヘルスと燃え尽きる前に支え合う職場づくり」と題しての研修が行われました。これもまた、豊富なデータや資料を通じて、メンタルヘルスの向上について考えることができました。「チーム学校」としての協働的指導・相談体制の構築、教職員同士が支え合う学校を基盤として、児童生徒への有効な支援となるよう「わかる力・つなぐつなげる力・いかす力」を高めていきたいと思いました。



## 学校カウンセラー部会 第7回研修会

石巻ブロック 麻喜 総一郎

令和5年度の学校カウンセラー部会が10月21日に東北福祉大学国見キャンパスにて開催され14名の出席者でした。前半の総会では事務局から令和4年度の事業報告、また令和5年度の事業計画についての報告がありました。学校カウンセラー部会役員案については、門間 純子部会長の退任にともない神田 裕樹先生が新部会長に選任されました。後半は「事例検討会の仕方」をテーマにした研修が行われました。冒頭、東北福祉大学の中村 恵子先生より「進め方の手順」についての講義がありました。先生からは「生物学的・学校環境の問題を洗い出す」「家庭環境の問題を洗い出す」「問題解決の見通しを立てる」「適応を変えるには何を変えるのか」といった手順の重要性について解説があり、事例検討会出席者が共有しやすいフォーム(書式例)についても紹介いただきました。そのあと、事例検討の実際ということで、熊谷 みち先生より実践例の紹介がありました。児童の不登校、保護者のアルコール

依存、暴力行為等の事例についての内容でしたが、中村先生から紹介されたフォーム(書式例)にもとづいた資料は、校内職員間で共有する場合に簡便ながらも明確であり示唆に富むものでした。特に、要支援児童の情報共有の例として、校内一覧表を校長室ホワイトボードの裏面に掲示し、日々かつ即時に対応できる実践をされていることに感銘を受け、時間の経過を忘れるほど充実した研修会でした

## ◇◇ 新カウンセラー紹介 ◇◇

### 「学校カウンセラー面接メモ」

私立高等学校SC 滝川 雅啓

試験会場には、面接官が3人。一人ずつ相談事例、教育相談理念等のQ&Aがあり、フレンドリーな進行でしたが、突如、約10分間のロールプレイを実施する旨を告げられ、面接官の一人が担任役を担当。SCが会場の椅子を設置して、面談開始となりました。私自身、初回のクライアントに対しては、インテーク面接をしてからコアな部分に介入していきますが、担任は、入室時から俯き、保護者からの苦情案件を語りました。主訴は、発達障害気味の生徒がクラスで「いじめられ」登校渋りは担任の力不足と叱責され、学年からの支援も得られず、一人で悩んでいるという設定でした。10分の面談を考慮し、傾聴だけに固執せず、SCの経験値からのアセス・対応と適宜提案すると共に、ケース会議でのSCの同席、リソースの提案も鑑み、今後の面談の継続を伝え、担任が孤立する事がないように、チーム学校の一員としてSCもサポートする事を伝え、面談は終了しました。

## 事務局より

### 1 令和5年度の宮城県支部の活動報告

#### 1 支部第21回総会

令和5年5月13日(土) 13:30～(会場:東北福祉大学仙台駅東口キャンパス)

#### 2 役員会(定例会)

##### ○第1回理事会

令和5年4月29日(土) 14:30～(会場:東北福祉大学国見キャンパス)

##### ○学校カウンセラー宮城県支部推薦委員会

申請者がいなかったため開催なし

##### ○第2回理事会

令和6年3月2日(土) 14:30～(会場:東北福祉大学国見キャンパス)(予定)

#### 3 事務局

##### ○令和5年度会員名簿発行

#### 4 各専門委員会

I 各専門委員会打合せ 令和5年5月13日(土) 総会終了後(会場:東北福祉大学仙台駅東口キャンパス)

#### II 各専門委員会活動

##### ○研修委員会

①第50回研修会(令和5年8月19日(土) 13:30～(会場:東北福祉大学仙台駅東口キャンパス))

②第51回研修会(令和5年11月18日(土) 9:50～(会場:東北福祉大学仙台駅東口キャンパス))

③研究発表会(令和5年8月19日(土) 10:00～東北福祉大学仙台駅東口キャンパス))

口

○広報委員会

- ・支部会報18号の発行（大崎ブロック）
- ・支部会報19号の発行準備（石巻ブロック）

○紀要作成委員会

- ・紀要第9号の発行予定（令和6年5月）

- 5 各ブロック（仙台ブロック） ブロック会議・第1回研修会 令和5年7月29日（土）  
（大崎ブロック） 夏の研修会 令和5年8月26日（土）  
（大河原ブロック） ブロック研修会 令和5年11月3日（金）

6 学校カウンセラー部会

- 第7回総会・研修会の開催（令和5年10月21日（土）13:30～（会場：東北福祉大学国見キャンパス））

## 2 日本学校教育相談学会宮城県支部第50回・51回研修会

### 1 第50回研修会

- 期 日 令和5年8月19日（土）13:30～
- 会 場 東北福祉大学仙台駅東口キャンパス
- 内 容 『発達障害のある子を対象とした通級指導教室での取り組み～多様な学びの場としての通級指導～』
- 講 師 坂本 條樹 先生（共立女子大学家政学部児童学科 講師）

### 2 第51回研修会

- 期 日 令和5年11月18日（土）9:50～
  - 会 場 東北福祉大学仙台駅東口キャンパス
  - 内 容 『『新生徒指導提要』が示すこれからの生徒指導・教育相談の方向性』と「教職員のメンタルヘルスと燃え尽きる前に支え合う職場づくり」
  - 講 師 新井 肇 先生（関西外国語大学 外国語学部 教授）
- ※1, 2の研修会ともハイブリッド（集合型&オンライン）で開催

## 3 日本学校教育相談学会宮城県支部令和5年度研究・事例発表会

- 期 日 令和5年8月19日（土）10:00～
- 会 場 東北福祉大学仙台駅東口キャンパス
- 内 容
  - ① 鈴木 宏子先生（大崎市子育て支援課）  
『母子父子自立支援員・婦人相談員』の仕事～SCとして知っておきたいDVの知識～
  - ② 渥美 愛乃先生（石巻市立大谷地小学校養護教諭）  
「学校現場に求められる学校教育相談とは～校内における『気になる子どもたち』への取組を通して～」



### 編集後記

このたび きずな18号を無事に編集することができ非常に安堵しています。お忙しい中原稿をお寄せいただいた皆様に心より感謝申し上げます。

3月と2月の季節が入れ替わったような気候に体が追いつかないような日々でしたが、コロナが5類になり、人と人との関係が元に戻りつつあるように思います。久しぶりに対面で研修会に参加したときに直接お聞きする皆さんの言葉に（少し大げさですが）生命を感じました。人と人とのつながりのありがたさも感じました。

今後も学びの機会を確保し、教育相談学会の輪を大きくしていきたいと思っております。

大崎ブロック 鈴木 宏子